

ラッグルスの回顧録

バスターガバナー 宮 脇 富

漸く決定したのであるが、我国の、建国の日には諸説紛々、一時はどうなるかと思われた。然し一旦決したなら、それでよいのである。比較的新しい国であり、資料も瞭きりしているアメリカの独立記念日にしても、7月4日というのは独立宣言の行なわれた日ではない。アメリカの独立決議案が大陸会議で採決されたのは7月2日であり、全議員がこれに署名したのは8月2日である。7月4日はハニコック議長とトンプソン書記官が認証した日である。ロータリーの記念日にしても、ハリス、シール、ローア及びショーレーが集ってクラブを造ろうと相談した日である。その前からその話はあった。クラブと銘を打って集ったのはその後の事である。しかもクラブの銘を打って集った時でも、ロータリーという言葉は用いられていなかった。それは良いとしても、茲に不思議なことがある。

ラッグルスは、ロータリーの始まったのは1905年ではなく、1904年だといっている。ラッグルスは印刷屋であったため、最初の頃の印刷物は皆彼の手で行なわれたものである。ポール・ハリスがクラブのことについて書いた論文四つを印刷したのは1904年であったといっている。この事について晩年ラッグルスは、その盟友ニュートンと論議したことがあった。然し彼の記録は皆焼失した後のことだったので、盟友ニュートンをして肯定せしめることは出来なかったようである。例えその証拠書類が出て来ても、それは印刷上の誤

りであるとニュートンは主張したのであろうと彼は書いている。

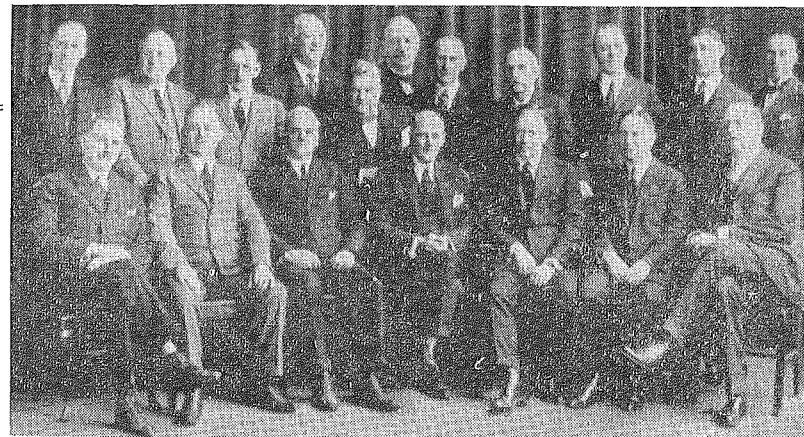
ラッグルスの回顧録には普通のロータリー文献に見られない色々なことがある。我々のポール・ハリスの印象は無髭の好々爺であるが、ラッグルスの回顧録を見ると、ハリスの若い時は有髭の美男子であったような印象を受ける。しかし事実これを証明する資料はない。士官候補生としてのハリス、シカゴロータリークラブ最初の写真にしても彼に髭のようなものは見当たらない。

ラッグルスによれば、ハリスは弁護士として債務取立が上手であったらしい。ハリスがシールと懇意になり意気投合したのは、ハリスがシールの貸金回収に成功したからであったようである。そうとすれば、ロータリーは借金取りに始まったともいえる。

ロータリーが連合会になって初めてその機関誌The National Rotarianを出した最初の版はタブロイド型12頁のものであったが、その印刷費がないので、ペリーは駆廻って広告を取ってこれを賄ったというようなこともあった。すべて初めはそういうものである。

ロータリー発足の動機にしても、先ず会員の職業を伸ばすためであったようである。一業一人という職業分類の制度が、ロータリアンは自らの同業者社会への使節たるためであるというようになったのは後の事であった。職業上の競争相手がおっては都合の悪い事も

シカゴRC創立当時(1905年)のグループ
当時のメンバーで1930年に生存していた会員、後列、ジェンソン、サリバン、ローレンス、ツイード、アーンツェン、ウォルフ、フレッチャー、ホーレイ、シュナイダー、ゴールドンベルグ、ネッフ、前列、チャピン、ホワイト、シーエル、ハリス、ラッグルス、ニュートン、クロフツ。



あり、打解けた話も出来ない事もあり、顧客を求めるにも困ることがある。心を割って真に話しあえる同志の集りを求め、同志はお互の職業の宣伝者となりうるという処に、この制度の生れた真の動機がうかがえる。これはラッグルスの新会員勧誘の時に用いた言葉で明らかである。

最初の頃は会員相互援助の目的で、資金融資のようなこともやったようであるが、弊害も認めるようになって止めたこともあった。その他にも色々職業向上のためには努力したようで、結局、各ロータリアンはその同業者への使節という理念を生み、職業の倫理掟を造り上げるに至った。斯くして、今日の職業奉仕には何等利己的なものはないが、初期においては“僕の背中を搔いて呉れ、そしたら僕は君の背を搔いてやる”式のものであった。1905年のシカゴロータリークラブの定款には“会員の事業の利益増進”という項があった。最もその他にも“会員親交の増進”ということもあった。

ロータリークラブという呼称は、クラブが始ってから数カ月後に、ハリスの発言で出来たものであるが、それまではブースタークラブと称えていた。勿論これは公式の呼称ではなく、その謂因録もあきらかではないが、お互にその職業を応援しあおうという意味で用いられたものであろう。ハリスがロータリーという言葉を持ち出したのは、勿論、初期の会合は会員の職業を廻り番に行われたからで

ある。然し彼は1922年2月23日のシカゴ商業新聞に、“今では全く忘れられているが、会員は1年の期限で選び、その年間の成績によって毎年改めて選考する計画であって、この規定によって会員の出席を良くすることができるということであった。但し、実際にはこの規定は適用されたことがない”と述べている。

次に、今日殆んどどのクラブで実行されている“ニコニコ箱”のことであるが、その起源は、初期のシカゴロータリークラブで、会員は食事をすましてから会場に集ることになっていた。また、別に会費というようなものを徴収していなかった。その代り、欠席した会員は、その都度50セントの罰金を払うことにし、これを罰金箱に入れることになっていた。後に1908年、この他に、例会通知に対し、出欠の返事を出さなかった会員にも50セントの罰金を払うこととした。このことは割合に良く励行され、ラッグルスに次で会計となったチャピンの報告で、過去9ヵ月間に集った罰金は533ドルに及び、諸経費を差引いて1.84ドル残ったことがわかった。そこで、時の会長ハリスは、クラブの財源委員会において、米国民の権威上罰金を払うということに対する抵抗に鑑み、罰金の代りに半月50セントの徴収ということに改正したと報告した。此の事は承認されたが、罰金制度はそれなりに良い処があるというので、今度はクラブ内で同志

の名を称ぶに敬称を使った場合には罰金を支払うということになった。これは、同志に別隔てしないで、お互に親密度を深めようというのが目的であった。茲に愛称による習慣が生じたのである。

或る日の会合にチャーリー・ニュートンが非常に遅れて例会に来たので罰金を科せんとした処が彼はこれを拒否し、その遅れた理由が食事が遅れた事にあるので、会員が各々別々に食事して集ることをやめ、食事を共にしてから、揃って例会場に行くようにしようという提案をした。これに対しては色々な議論もあり、支障もあり、エピソードもあったが、結局一定の場所で食事をなし、そこで例会を開くことになり、それが習慣となり固定して今日に及んだのである。これをクラブの定款に明記したのは、第3番目に出来たオーランドのロータリークラブであった。序に述べておくが、シカゴロータリークラブでは初め頃は不定期に集っていたが、共に食事するようになってから、月2回行うことにしている。

その他、ロータリーの習慣は主として自然発生によるもので、恰かも小さな種子が自然に萌え、緑の大樹に成長したもののようである。社会奉仕にしても、シカゴロータリークラブが、市庁に公衆手洗所を造ったことに始まっておる。その以前にも、会員ホーレーが近郷の或る獣医で往診用の馬をなくして困っている話をした処、会員が挙って抛出して馬を買い、彼に与えたこともある。斯様なことが発展して社会奉仕がクラブの重要活動になる因をなしている。

クラブ週報とか月報は、ラッグルスが、毎回例会の通知ハガキを出し、それに余白が相当あったので、会員ラムガイの示唆で、一寸した記事をかき込むようにしたのに、その端を発したものである。そこで、初めはそれを Rotary Yell といっていたようであるが、後

に会員チャピンの進言で Rotary を逆に書き頭にGをつけて Gyator にして、シカゴのクラブ週報の名前として今日に及んでいる。何故にGをつけたかは、ラッグルスも覚えていないといっているが、Gyrateに通ずるからであろう。Gyrate はぐるぐる巡るという意味を持っている。

兎角、会合というものはだれ易いものである。だれた会合には私語が起るものである。そこで会を引き締める策として、先ず第一にシールがハリスの勧めで職業上の話をしはじめ、また年に3回位夫人を招待することにした。当時ハリスにしてもシールにしても、何れも未婚者であった。色々な手も尽されたが会のだれはなかなか取れないで益々だれる一方であった。そこで或る会合でラッグルスは突然腰掛の上にとび上り、蛮声をはりあげて歌いだした。ハリスもこれにに応じてうたい、皆が合唱した。次の会から、皆がハリ歌おうではないかと催促するようになって、茲にロータリーの会合で歌う習慣が出来たのである。ポール・ハリスは初めロータリーで歌をうたうということには疑問をもったとのことであったが、その効果を認めて強調するに至った。

或る会合で、外来の或る講演者が話を始めた。ラッグルスはその話の筋道を知っていた。その話の落ちは卑猥な事になることが分っていたので、その話の途中で、ラッグルスは、いきなり立上って大声で歌い始めた処、他の会員もこれに和して歌い、講演者を当惑せしめた。講演者是不機嫌であった。勿論、ラッグルスは謝罪した。然し会員は、この劇的事象で、ロータリーの会合が婦人がおっても赤面することのないような会合になるよう、ロータリーの品性を保つことが出来たと喜んだ。爾来ロータリーの講演は名誉あるものとの不文律が確立された。

斯くして自然に今日の節度あるロータリーが盛り上ったのである。